

第2章

都市づくりの目標

1. 岩国市の将来像
2. 都市づくりの基本理念
3. 目標人口
4. 都市づくりの目標
5. 将来都市構造

第2章 都市づくりの目標

1. 岩国市の将来像

上位計画である『第3次岩国市総合計画』の将来像の実現に向けて、第1章において示した「目指す都市の姿」を実現していく必要があります。そのための岩国市都市計画マスタープランの将来像を次のとおり掲げます。

第3次岩国市総合計画の将来像

ともに歩み、ともに創り、ともに輝く、
交流とにぎわいのまち岩国

岩国市都市計画マスタープランの将来像

豊かな自然と歴史や文化につつまれた
交流とにぎわいのまち いわくに

2. 都市づくりの基本理念

岩国市都市計画マスタープランの将来像を実現するため、『第3次岩国市総合計画』の基本理念をもとに、以下の3つの基本理念を踏まえた都市づくりを推進します。

「時流」とともに歩む・・・

変化する社会情勢や経済状況の中、市民の暮らし方のニーズに応じた、安全で快適な生活環境が提供できる都市を目指します。

「郷土」とともに歩む・・・

広大で豊かな自然環境により生み出される恵みや、その中で育まれる歴史・文化を守り、次代に継承する都市を目指します。

「人」とともに歩む・・・

まちづくりのあらゆる場面において市民の参加の仕組みを構築し、市民と行政との協働により課題の解決に取り組むことで、未来を切り開いていく都市を目指します。

3. 目標人口

2023（令和5）年3月に策定した『第3次岩国市総合計画』では、社人研による将来人口の推計値①を基に、出生率や社会移動（転入・転出）の改善を見込んだ3通りの将来人口推計（推計値②～④）を提示しています。（下図参照）

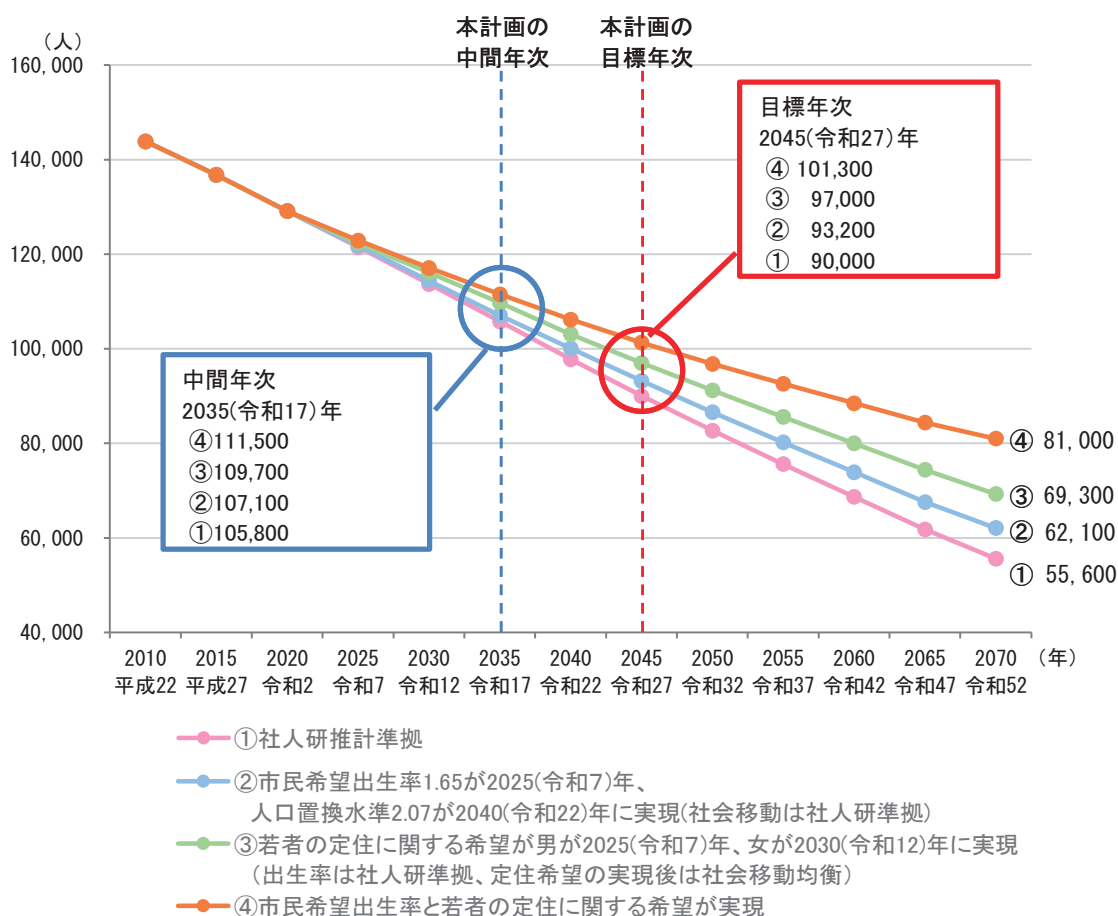
具体的には、推計値②は「市民希望出生率、人口置換水準が実現」することにより出生率が改善されるケース、推計値③は「若者の定住に関する希望が実現」することにより社会移動が改善されるケース、推計値④はこれら両方が実現するケースとなっています。

推計値①では、基準年次である2020（令和2）年の129,125人に対し、計画の目標年次である2045（令和27）年には9万人まで減少することが予測されています。

一方、推計値②～④では、いずれも推計値①を上回る人口規模が見込まれており、出産・子育ての希望をかなえる施策や移住・定住の促進に向けた施策の展開により、推計値①を上回る人口の確保を目指すこととしています。

岩国市都市計画マスタープランにおいては、これらの考え方にに基づき、2045（令和27）年の目標人口として、9万人を上回る水準とします。

■将来目標人口



出典：第3次岩国市総合計画を元に加工

4. 都市づくりの目標

岩国市都市計画マスタープランで掲げる「将来像」や「目指す都市の姿」の実現に向けて、「都市づくりの目標」を設定します。

目指す都市の姿

- ① 将来を見据えた持続可能な都市経営の実現を目指すまち
- ② ヒト・モノ・カネが集まるにぎわいのある拠点を活かしたまち
- ③ 恵まれた交通環境を活かした魅力あるまち

上記のまちづくりが実現した都市では・・・

- ・「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりが進んでいます。
- ・高密度な土地利用と低密度でゆったりとした土地利用が適正に配置された、メリハリのある市街地に再編されています。
- ・地域の実情やニーズに応じた、岩国らしい中心市街地が形成されています。
- ・岩国市の多様な魅力が本市の活力につながっています。
- ・誰もが行きたい場所に行けるような、道路・公共交通環境が整っています。
- ・まちづくりのあらゆる場面において、環境に配慮されています。



目指す都市の姿の実現に向けて目標を設定します。

目標1 拠点とネットワークによる交流と活力を生み出す都市づくり

目指す都市の姿

④ 誰もが安全で快適に暮らすことができるまち

上記のまちづくりが実現した都市では・・・

- ・ にぎわいのある暮らしやゆとりある暮らし等、それぞれのライフスタイルやライフステージにあった住まいを選べます。
- ・ 公園や生活道路等、地域の実情に応じて必要な都市基盤が整っています。
- ・ 空地や空家等の使える空間をうまく使っています。



目指す都市の姿の実現に向けて目標を設定します。

目標2 多様な暮らし方を選べる魅力ある都市づくり

目指す都市の姿

- ⑤ 豊かな自然環境を守り育てるまち
- ⑥ 歴史、文化等の地域資源を活かしたまち

上記のまちづくりが実現した都市では・・・

- ・ 岩国の山、川、海、田園が良好な状態で維持されています。
- ・ 農林水産業等、自然を活かした産業が活性化しています。
- ・ いにしえより伝わる本市固有の歴史や文化、景観を守り育てながら、地域の活性化に活かしています。



目指す都市の姿の実現に向けて目標を設定します。

目標3 自然、歴史、文化を活かした愛着と誇りを持てる都市づくり

目指す都市の姿

⑦ 災害に強いまち

上記のまちづくりが実現した都市では・・・

- ・救急・災害時の備えが整った強靱なまちになっています。
- ・あらゆる人が防災・減災活動に参加し、お互いに助け合える環境が整っています。



目指す都市の姿の実現に向けて目標を設定します。

目標4 自然災害に備えた安心・安全な都市づくり

目標1から4のまちづくりが実現した都市では・・・

- ・たくさんの人がまちづくりに参加しています。
- ・みんなで協力して快適に暮らせる環境を保っています。



支えあいと協働で暮らしを支え、育む都市づくり

■ 都市づくりの基本方針の体系図

社会情勢、時代の潮流

- ・人口減少・少子高齢化の進行
- ・財政制約とインフラの老朽化
- ・自然災害の頻発・激甚化
- ・脱炭素社会の実現に向けた施策・事業の加速化
- ・デジタル化の進展
- ・コロナ禍を経た暮らし方や働き方の変化
- ・ライフスタイルの多様化
- ・インバウンド効果による地域経済の活性化

岩国市の特徴と問題点

《岩国市の状況》

【1】人口減少・少子高齢化に伴う地域活力の衰退

- ・本市の人口は減少傾向が続いており、2045（令和 27）年の将来推計人口は 2020（令和 2）年よりも更に 30.2%減少する推計。それに伴い、少子高齢化も進行している。
- ・自家用車を中心とした生活様式を背景に商業施設等の分散化している中で、人口や生産年齢人口の減少が進むことで、市内の事業所や店舗の撤退や空家の増加等、地域の活力や生活サービスの低下とともに、拠点性の低下が危惧される。
- 拠点を中心に市街地整備や都市施設の整備を行い、集約型都市づくりを進めているが、人口減少下において公共や民間による生活サービスや地域コミュニティを維持するためには、更なる集約化が必要

【2】自然災害の頻発・激甚化

- ・本市は山地に囲まれ、海や川に面している地理的特性から、土砂災害や河川浸水、津波・高潮浸水等の多くの災害リスクを抱えており、災害リスクの高いところに市街地が形成されている。
- ・近年では、2005（平成 17）年の台風 14 号や 2018（平成 30）年 7 月豪雨（西日本豪雨）等、甚大な被害をおよぼす水災害に見舞われた。
- 地球温暖化により全国で自然災害が頻発化・激甚化する中で、災害への備えが必要

【3】インフラの老朽化、都市施設整備の停滞

- ・本市の公共施設（建物）の延床面積の約 6 割が建設後 30 年以上経過しており、老朽化が進行。
- ・他市に比べて公共施設が多い（人口一人あたりの公共施設面積が大きい）。
- ・都市計画後、長期未着手の都市施設や都市計画事業があり、順次今後のあり方を検討している。
- 人口減少・少子高齢化に伴い財政状況が厳しくなることから、公共施設の統廃合や複合化とともに、これまでの新しく整備する手法から転換し、既存施設をできるだけ長く使う「長寿命化」を進めることが必要

【4】豊かな自然環境と歴史・文化的資源

- ・本市は山、川、海等の豊かな自然環境とともに、瀬戸内海沿岸部や山間部等に市民の生活の場が点在する自然と都市（まち）が共存する都市である。
- ・錦川下流域における錦帯橋と城下町の文化的景観が国の重要文化的景観に選定されたことを契機に、世界文化遺産登録に向けた取組を進めている。
- 都市計画区域外の山間部での人口減少は著しく、また第 1 次産業従事者の減少と高齢化が進む中で、本市の特徴の一つである自然環境の維持・保全が必要。
- 錦帯橋をはじめとする地域に根づく歴史・文化的資源の保存・活用と地域の活性化につなげる必要がある

《市民・高校生アンケート、地域別ワークショップ》

【市民】

- ・居住地域の生活環境の評価（23 項目）では、「総合評価」で過去 2 回の調査と比較し、満足度が一番高い。中でも女性の 40 歳以下と男性の 30 歳代で満足度が高い。
- ・満足度が最も高いのは「自然の豊かさ」、最も低いのは「娯楽やレジャーの場の多さ」。
- ・20 年後に希望する都市の姿は、「各々の地域で便利に暮らせるまち」、「災害に強い安心・安全なまち」、「公共交通機関で移動しやすいまち」

【高校生】

- ・生活する上で困っていることは、「賑わい（娯楽）の場所がない」、「市内に買物できる場所がない」、「交通が不便」
- ・将来の居住については、岩国市外を志向している人が 50%を超えるが、「将来は戻ってきたい」も 25%程度を占める。
- ・20 年後に希望する都市の姿は、「中心市街地が便利でにぎやかなまち」、「各々の地域で便利に暮らせるまち」、「災害に強い安心・安全なまち」

【地域別ワークショップ】地域差はあるが、以下のような事項を望む意見が多い。

- ・若者向けには、住む場所、にぎわいの場、働く場
- ・高齢者向けには、徒歩圏での店舗・医療などの施設、公共交通による移動の利便性の向上
- ・その他、観光振興、農業振興、災害対策 等

→岩国市の将来の都市の姿としては、以下のような傾向がみられる。

- ・高校生では、市の中心市街地でのにぎわいのあるまちを望む。
- ・40 歳代以下は、車移動を前提に、商業・医療等の利便性とにぎわいが両立したまちを望む。
- ・50 歳代以上は、公共交通の利便性や居住している地域での利便性の高いまちを望む。
- ・人口減少下でも便利で暮らしやすいまちを望む。

目指す都市の姿

① 将来を見据えた持続可能な都市経営の実現に向けたまちづくり

② ヒト・モノ・カネが集まるにぎわいのある拠点を活かしたまちづくり

③ 恵まれた交通環境を活かした魅力あるまちづくり

- ・「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりが進む
- ・メリハリのある土地利用による市街地に再編されている
- ・地域の実情やニーズに応じた中心市街地が形成されている
- ・本市の多様な魅力が、本市の活力につながっている
- ・まちづくりに関して環境に配慮されている

④ 誰もが安全で快適に暮らすことができるまちづくり

- ・それぞれのライフスタイルやライフステージにあった住まいを選べる
- ・地域の実情に応じた都市基盤が整っている
- ・空地や空家等の使える空間をうまく使っている

⑤ 豊かな自然環境を守り育てるまちづくり

⑥ 歴史、文化等の地域資源を活かしたまちづくり

- ・本市の自然環境が良好な状態で維持されている
- ・自然を活かした産業が活性化している
- ・本市固有の歴史や文化、景観を守り育てながら、地域の活性化に活かしている

⑦ 災害に強いまちづくり

- ・救急・災害時の備えが整った強靱なまちになっている
- ・あらゆる人が防災・減災活動に参加し、お互いに助け合える環境が整っている

都市づくりの将来像

第3次岩国市総合計画の将来像

ともに歩み、ともに創り、ともに輝く、交流とにぎわいのまち岩国

岩国市都市計画マスタープランの将来像

豊かな自然と歴史や文化につつまれた
交流とにぎわいのまち いわくに

都市づくりの基本理念

- 「時流」とともに歩む・・・ 変化する社会情勢や経済状況の中、市民の暮らし方のニーズに応じた、安全で快適な生活環境が提供できる都市を目指します。
- 「郷土」とともに歩む・・・ 広大で豊かな自然環境により生み出される恵みや、その中で育まれる歴史・文化を守り、次代に継承する都市を目指します。
- 「人」とともに歩む・・・ まちづくりのあらゆる場面において市民参加の仕組みを構築し、市民と行政との協働により課題の解決に取り組むことで、未来を切り開いていく都市を目指します。

都市づくりの目標

目標1 拠点とネットワークによる交流と活力を生み出す都市づくり

目標2 多様な暮らし方を選べる魅力ある都市づくり

目標3 自然、歴史、文化を活かした愛着と誇りを持てる都市づくり

目標4 自然災害に備えた安心・安全な都市づくり

支えあいと協働で暮らしを支え、育む都市づくり

- 都市づくりの方針（全体構想）
- 地域づくりの方針（地域別構想）

5. 将来都市構造

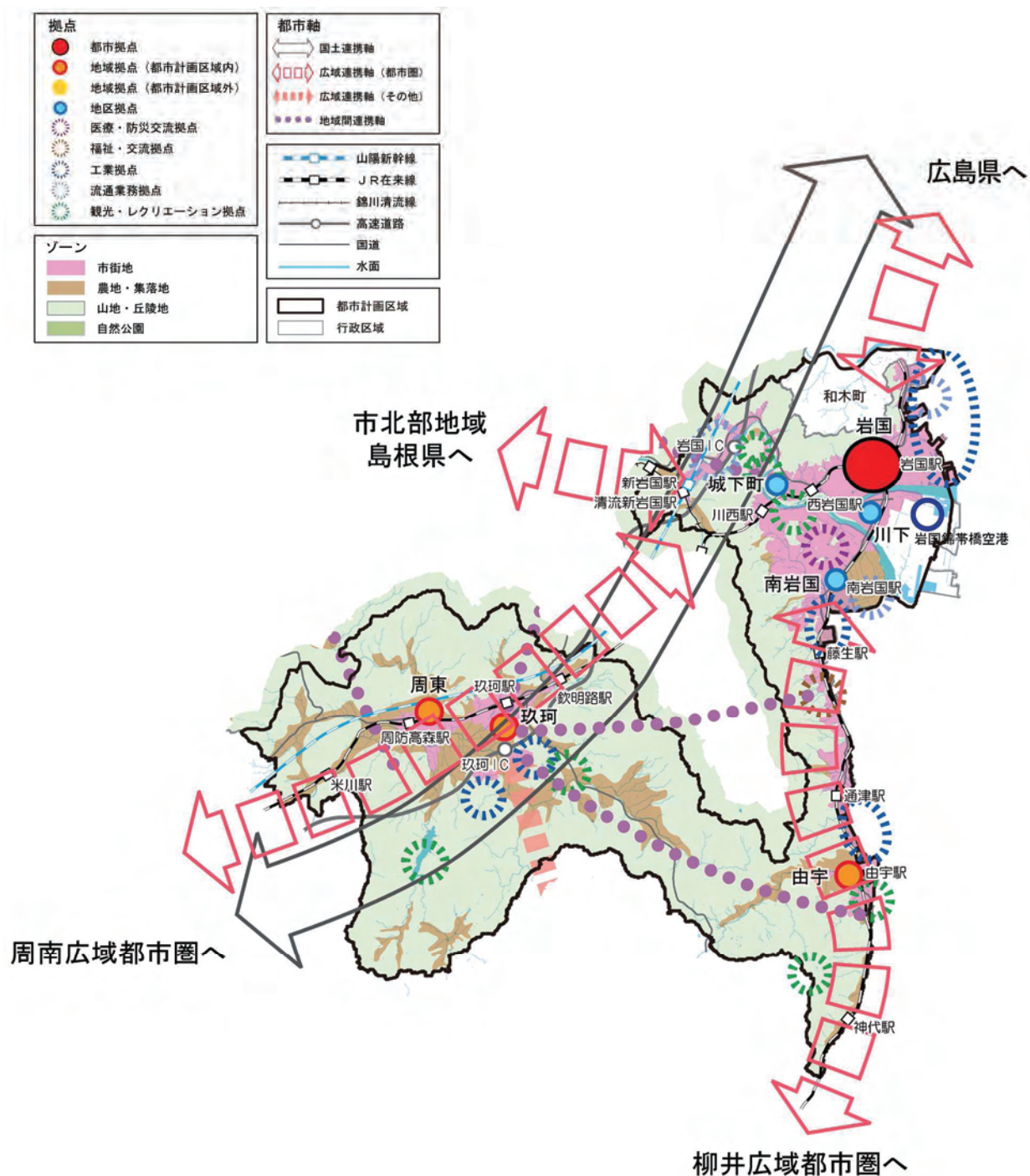
本市の将来像の実現に向けて、都市計画分野では「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりによる、安心・安全で快適を確保した持続可能なまちづくりを進めます。

「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めるため、市全域、地域、地区の中心や産業の中核を「拠点」に設定するとともに、これらの拠点や市外の都市とを結ぶ交通網を「都市軸」に設定し、「ゾーン」で示す土地利用の方針に基づき、「拠点」と「軸」それぞれが担う役割を達成していきます。

■ 将来都市構造図（市域全体）



■ 将来都市構造図（都市計画区域）



(1) 拠点

市全域、地域、地区の中心や産業の中核を「拠点」に設定し、各拠点が担う役割に応じた機能の維持や強化を図ります。

①都市拠点

高次都市機能*が集積し、公共交通が充実する、本市の中心的な役割を担う岩国駅を含む中心市街地及びその周辺の市街地を位置付け、拠点性の強化を図ります。

②地域拠点

地域の日常生活を支えるための機能が集積する、各地域の中心的な役割を担うエリアとして、総合支所や支所が立地する既成市街地を位置付け、地域の中心としての機能の維持と強化を図ります。

③地区拠点

岩国都市計画区域内において、地区の日常生活を支えるための機能が集積する、地区の中心的な役割を担うエリアとして、城下町地区、川下地区、南岩国地区の既成市街地を位置付け、地区の中心としての機能の維持と強化を図ります。

④医療・防災交流拠点

本市の高度医療及び消防・防災の中心的な役割を担うエリアとして、岩国消防防災センターや国立病院機構岩国医療センターなどの医療・防災機能に加え、交流機能を有する愛宕山ふくろう公園を含む区域を医療・防災交流拠点として位置付け、危機管理機能のさらなる強化を図ります。

⑤福祉・交流拠点

本市の福祉機能の中心的な役割を担うエリアとして、福祉機能、科学学習機能及び屋外空間を活用した交流機能を有する黒磯地区のいこいと学びの交流テラスを中心に、福祉・交流拠点として位置付け、福祉機能の充実を図ります。

⑥工業拠点

製造業等の工業施設が集積する業務活動の中心的な役割を担うエリアとして、臨海工業地及び内陸部の工業団地を位置付け、産業活動の維持・発展を図ります。

⑦流通業務拠点

国土交通軸や広域交通軸等の広域的な交通施設の利便性を活かした流通業務活動の中心的な役割を担うエリアとして、重要港湾岩国港周辺地区、岩国インターチェンジ

の周辺地区及び岩国市地方卸売市場周辺地区を位置付け、流通業務機能*の更なる集積と強化を図ります。

⑧観光・レクリエーション拠点

良好な自然環境等を活用し、多くの人が交流、休憩、体験等ができるエリアとして、瀬戸内海国立自然公園、西中国山地国定公園、羅漢山県立自然公園や、錦帯橋をはじめとする観光施設、大規模公園等を位置付け、自然環境の保全・活用や施設の機能充実に努めます。

(2) 都市軸

拠点や市外の都市とを結ぶ交通網を「都市軸」に設定し、それぞれの都市軸が担う役割の維持・強化を図ります。

①国土連携軸

国土レベルの広域的な移動を主目的とする交通施設により、広域的な連携を支える機能を担う軸として、ＪＲ山陽新幹線、山陽自動車道、中国自動車道及び岩国錦帯橋空港を位置付け、機能の維持と交通結節機能の強化を図ります。

②広域連携軸

広域的な移動を可能とする交通施設により、県内外の都市との連携を支える機能を担う軸として、ＪＲ山陽本線、国道２号及び国道188号等の鉄道や幹線道路を位置付け、機能の維持・強化を図ります。

③地域間連携軸

市内の移動を主目的とする交通施設により、市内の各拠点を連携する機能を担う軸として、ＪＲ岩徳線、錦川清流線及び主要な地方道や市道等を位置付け、機能の維持・強化を図ります。

(3) ゾーン

土地利用に基づき「ゾーン」を設定し、それぞれのゾーンに応じた機能の誘導や維持・保全を図ります。

①市街地

既に市街地が形成されている岩国都市計画区域の市街化区域及び岩国南都市計画区域の用途地域を位置付け、『岩国市立地適正化計画』で設定したにぎわい居住区域

（居住誘導区域）への居住の誘導と、都市機能誘導区域を中心とした都市機能の立地誘導を図ります。

②農地・集落地

優良な農地及び農林漁業等の集落が形成されている、市街地周辺のまとまりのある農地・集落地、中山間地及び沿岸部の集落地を位置付け、これらの環境の維持・保全を図ります。

③山地・丘陵地

市の北部に広がる山地及び市街地周辺の丘陵地を位置付け、これらの維持・保全を図ります。

④自然公園

瀬戸内海国立自然公園、西中国山地国定公園、羅漢山県立自然公園を位置付け、今後も豊かな自然環境の積極的な保全と活用を図ります。